



北海道白老町、栗山町、長沼町行政調査報告書

令和5年7月13日

大石田町議会議長 大山二郎

6月27日から2泊3日で4年ぶりの行政調査に、北海道の3町を視察研修してきました。最初に訪れたのは白老町、当町よりもかなり早くから議会改革に取り組んでおり、基本条例はもちろん、政治倫理に関する条例化もしており、通年議会や政策・条例提案など、議会の改革として、当町の1歩も2歩も先を行っている様でした。大石田議会も、より開かれた議会、もっともって町民のためになる議会を目指さなければと、改めて感じ、とても有意義な行政視察研修になりました。

次に訪れたのは、14年前頃に訪れ、議会基本条例の勉強をさせていただいた、栗山町を訪れました。全国でも有数の議会改革の町でもありますので、今回は反問権や質疑の回数制限撤廃など、議会活性化の取り組みについてご教授いただき、今後、議会モニター・サポーター制度なども取り入れていきたいと思いました。話を聞いていて感じることは、各議員の意識の高さです。改革を行ってきた長さ、歴史を感じました。そんな中、当町と同じ悩みを抱えているとのこと、それは議員のなり手不足です。当町は3期連続の無競争ですが、栗山町も2度の無競争だったので、議員の学校を企画、短期間ながら、成果として、今年の選挙は無競争を回避できたとのこと。当町も先日女性・青年議会を開催し、議員のなり手の掘り起こしを行ったばかり、秋の改選期には是非選挙戦があることを願っています。

最後に訪れたのは、長沼町、ワーケーションを活用した移住施策、関係人口拡大等の取り組みについて視察研修しました。民間が管理するホワイトベースという施設を利用し、プランニングを募集した中から、町が提案するプランを、チームに提示し、個々人のスキルや能力・経験を最大限発揮し、目標を達成させることによって、より町を知り、移住や定住につなげていくという取り組みで、道内での町の立地や施設環境をうまく利用した取り組みでした。当町でも新幹線や高速道路により、交通網は整備され、交流人口や関係人口も増えてきていますので、空き家の活用として、ベンチャー企業誘致や、ワーケーションなども取り入れながら人口減少問題に取り組んでいけるのではと思いました。

全体を通して、とても有意義な行政視察研修ができたと思います。各議員も積極的に質問し、向上心が見られましたし、今後少しでも意識の変革につながればと思います。大石田町議会としては、町民に開かれた議会、より町民のためになる議会を目指して、まだまだ改革していくことがたくさんあります。今回の研修で、私を含め議員各位が一丸となって改革に取り組んでいけるだろうことを願います。